

統一球の影響

Influence of a unification ball

1K08B097-8 佐野 直音

指導教員 主査 岡田純一先生 副査 葛西順一先生

緒言

スポーツにおいて「公平性」はとても重要なものである。そのため、審判がいて、あらゆることに規則がある。しかし、野球において、ある程度の規制はされているものの、公平性に少し欠けているものがある。それが「ボール」である。日本プロ野球機構(以下「NPB」と略す)ではすべての試合で同じボールが使用されているわけではなかった。そこで今シーズン、NPBは公平な環境づくり、国際試合で使用するボールに近づけ、慣れることを目的として統一球が導入された。

目的

シーズン途中、シーズンを終えて選手のコメントで統一球の影響を感じさせる発言がテレビ番組などであった。統一球は昨シーズンまでのボールと比べて飛ばなくなったということは実験により証明されているが、本研究では統一球の影響が実際に、成績にどのように表れているのかを分析し、日本球界に与えた統一球の影響を明らかにする。

研究方法

本研究は日本野球機構オフィシャルサイト、プロ野球記録博物館より2003年から今シーズンの2011年の投手データ、打者データを収集した。そして、リーグ、チーム、個人の視点から成績を分析し、本塁打、打率、得点、打点、OPS、犠打、盗塁、IsoD、防御率、奪三振、与四死球、WHIPの変化、傾向を調べた。この結果より統一球の影響を明らかにした。

結果・考察

(1) 本塁打の減少

本塁打数はセ・リーグが863本から485本に、パ・リーグは742本から464本に減少した。チーム別に本塁打数を見てみると12球団全てのチームが減少した。本塁打数上位5傑を見ても30本を越えた選手は今季2人しかない。毎年本塁打を量産する外国人選手もほとんどの選手が減少した。本塁打が大幅に減少したことが統一球の導入により明らかになった。

(2) 防御率の低下

防御率は全12球団が向上した。防御率は2点台後半で

一流、2点台前半で超一流と言われる。昨シーズンは2点台を記録した選手がセ・パ合わせて7人であったが、今シーズンは26人と増加した。統一球は「飛ばないと」ということが物理的にも、打者成績からも証明され、投手は精神的に余裕を持って投球できていると考えられる。そのためインコースを思い切って攻められるようになったことがとても大きい。統一球の存在が投手の精神を安定させたことも、防御率の向上や打者の打撃成績の低下の原因の1つとして考えられる。

(3) ロースコアゲーム

昨シーズンと今シーズンのセ・パ両リーグの各864試合を対象とした両軍合計4点以下のロースコアゲームについて分析した。その結果、1対0の試合が22試合から47試合に増え、1対1、2対0の試合も11試合から58試合に増えた。合計得点3点、4点の試合もそれぞれ40試合以上増えた。そして、一方のチームが10得点以上取った試合は120試合から48試合に減少した。乱打戦が減少し、ロースコアで試合が展開され、1点を争う締まった試合が増加したことがわかる。

まとめ

統一球の導入により日本球界は大きな影響を受けたが、来シーズンも統一球は使用される。どういう戦い方をすべきか、チームのスタイルを変えるべきなのか。安定した投手力、投手人数を増やすことが必要である。メジャーリーグ(以下「MLB」と略す)で日本人が成功できないことと、MLB球、国際球に近づけて作られた統一球がその打撃能力の低さを露呈させたことから、打撃能力の向上も必要ではあるが、盗塁や犠打といった小技が攻撃にかかせないものになってくると考えられる。ワールドベースボールクラシックで日本が優勝したように投手力を中心とした守備、そして機動力、小技を使った攻撃をすれば、パワーや体格で劣るメジャーリーガーにも勝てるということが証明されている。したがって、統一球の導入により日本の野球の代名詞である「スモールベースボール」を再考する機会が到来したのと考えられる。

